

論文審査の結果の要旨および担当者

| | | | |
|------|---|---|---|
| 報告番号 | ※ | 第 | 号 |
|------|---|---|---|

氏 名 HUSSAIN Blawal

論 文 題 目

Comparison of Aberrant Driving Behaviors amongst Japanese, Chinese, and Vietnamese Drivers

(日本、中国、ベトナムにおける異常運転行動の比較分析)

論文審査担当者

| | | | |
|-----|-------------------|-----|------|
| 主 査 | 名古屋大学未来社会創造機構 | 教授 | 森川高行 |
| 副 査 | 名古屋大学大学院環境学研究科 | 教授 | 富田孝史 |
| 副 査 | 名古屋大学大学院環境学研究科 | 准教授 | 井料美帆 |
| 副 査 | 名古屋大学未来材料・システム研究所 | 教授 | 山本俊行 |
| 副 査 | 名古屋大学未来材料・システム研究所 | 准教授 | 三輪富生 |

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

世界中でモータリゼーションが進展する中、とくに発展途上国における交通事故の問題は深刻であり、その削減は大きな社会的課題となっている。交通事故の原因の9割以上は運転者の過失であり、事故に至る過失を誘発する異常運転行動の原因を調査分析することは、交通事故や運転ストレスを削減するために非常に重要である。本論文では、モータリゼーションの程度、道路交通環境、運転リテラシーがそれぞれ大きく異なる、日本の名古屋、中国の北京、ベトナムのホーチミン市の一般ドライバーにアンケート調査を行い、異常運転行動の実態とそれをもたらす原因について分析したものである。

調査は、2018年にこの3都市においてそれぞれ千人程度の一般ドライバーに対して、個人の性格を示す Big Five 尺度、運転行動特性、運転経路選択意向に関する質問調査をインターネットを通して実施した。

まず、異常運転行動の中でも、各種の違法運転の頻度はベトナムで最も高く、日本では重大な違法運転頻度は最も低かったが、スピード違反などの軽微の違法運転は中国で最も低かった。これは各国の文化的背景とともに、取り締まりの方針が影響していると思われる。過失の頻度は、やはりベトナムで最も高く、日本が最も低かった。次に、異常運転行動と Big Five 性格尺度との関係性を主成分分析手法を用いて分析したところ、各国とも「調和性」は重大な違法運転と有意な負の関係にあり、「誠実性」と軽微な違法運転の関係は、日本とベトナムでは負であったが、中国では正であった。これは、軽微な違法行為は、性格よりも取締りの方法が影響を与えることを示唆するものである。また、「情緒不安定性」は、とくに女性ドライバーに対して過失の頻度と有意に関係があることも示された。

自身の運転行動と、他者の運転行動の評価に影響を与える要因としては、過去の事故の経験の有無が最も大きく、次に教育レベルが大きかった。とくに日本の高学歴ドライバーは、他人の運転よりも自分の運転に高い評価を与える傾向が顕著であることが示された。中国の低学歴ドライバーは、自分にも他人にも甘い運転評価を行う傾向があった。ベトナムのドライバーは、自分と他人の運転評価に一定の傾向が見られず、同国の混沌とした交通状況が影響を与えているものと推察された。

最後の運転経路選択の分析では、旅行時間と費用に加えて、他者の異常運転行動がもたらす運転ストレスを説明変数に用いた結果、プロスペクト理論が示唆するように、現在の経路よりも悪化する要因に対して大きな非選択傾向を示したうえ、運転ストレスと他の要因とのトレードオフ関係も明らかになった。

以上のように本論文は、自動車文化の異なるアジアの3国の異常運転行動を分析した結果、交通事故削減や運転ストレス削減につながる有益な知見を得ることができた。よって、提出者である Blawal Hussain 氏は博士（工学）の学位を受けるに十分な資格があると判断した。